

平成 28 年 9 月新発田市教育委員会定例会会議録

○ 議事日程

平成 28 年 9 月 6 日（火曜日） 午前 9 時 30 分 開 会
豊浦庁舎 2 階教育委員会会議室

日程第 1 会議録署名委員の指名について

日程第 2 前回定例会会議録の承認について

日程第 3 教育長職務報告（7 月 30 日から 8 月 26 日まで）

日程第 4 議 題

議第 1 号 平成 27 年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検、評価等に関する議会
への報告について

議第 2 号 平成 27 年度一般会計決算について

日程第 5 その他

○ 会議に付した事件

議事日程に同じ

○ 出席者

大 山 康 一 教育長

関 川 直 委 員（教育長職務代理者）

外 山 陽 子 委 員

桑 原 ヒサ子 委 員

笠 原 恭 子 委 員

○ 説明のため出席した者

教育総務課長 杉 本 茂 樹

教育総務課長補佐 大 森 雅 夫

学校教育課長 澁谷 一 男

文化行政課長 平 山 真

中央図書館長 平 田 和 彦

中央公民館長 伊 藤 英 策

青少年健全育成センター所長（兼児童センター所長）
本 間 栄 一

○ 書 記

教育総務課長補佐

佐久間 与 一

教育総務課学事係長

小 室 貴 史

○ 資料確認

○ 大山教育長

それでは、ただ今から教育委員会平成28年9月定例会を開会します。

日程第1 会議録署名委員の指名について

○ 大山教育長

日程第1 会議録署名委員の指名についてであります。外山委員を指名いたします。

日程第2 前回定例会会議録の承認について

○ 大山教育長

日程第2 前回定例会会議録の承認についてお諮りいたします。すでに送付してあります会議録について、ご質問等ございますか。

○ 大山教育長

なければ、承認の方の挙手をお願いいたします。

○ 大山教育長

挙手全員でありますので、前回定例会会議録は承認されました。

日程第3 教育長職務報告

○ 大山教育長

日程第3 教育長職務報告を行います。
職務報告については、既に送付してあります「平成28年教育長職務報告（平成28年7月30日～平成28年8月26日分）」によりご承認願います。

○ 大山教育長

何かご質問等はございますか。

○ 大山教育長

ないようですので教育長職務報告については、了承することとしてよろしいでしょうか。

○ 大山教育長

異議なしと認めますので、教育長職務報告は了承されました。

日程第4 議題

○ 大山教育長

日程第4 議題に入ります。
議第1号 平成27年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検、評価等に関する議会への報告について、を審議します。
杉本教育総務課長から説明をお願いします。

【杉本教育総務課長 説明】

○ 大山教育長

何かご質問等はございますか。

○ 関川教育長職務代理者

事務事業事後評価結果の31ページの536、「食とみどりの新発田っ子プラン推進事業」の判定が、平成26年度の4から昨年度は3と下がっています。同様に、34ページの581、「放課後こども教室推進事業」の判定も下がっていますが、この辺の事情を伺いたい。

○ 杉本教育総務課長

「食とみどりの新発田っ子プラン推進事業」について、平成26年度の4から平成27年度は3に下がっているとご指摘がありましたが、その根拠となりますのが食育実態調査でありまして、小煮物を一人で作ることができる中学3年生の割合、弁当を一人で作ることができる小学6年生の割合が前年度を下回ったということで判定が下がっているということでございます。

詳しい数値につきましては、実態調査の資料が手元がないので、後で確認してご説明させていただきますが、事情としましては、そういう理由で数値が下がったがゆえに判定結果も下がっているということでご了承いただきたいと思います。

○ 澁谷学校教育課長

「放課後こども教室推進事業」については、指標にありますとおり二葉教室と菅谷教室の2校についての児童数を示しております。手元に実際何人という実数は持っておりませんが、登録児童数が減少したことに伴いまして下がったということでもあります。

○ 関川教育長職務代理者

当初予定していた児童数よりも少なかったという意味でしょうか。

○ 澁谷学校教育課長

前年度に比べて少なくなったという意味です。

○ 関川教育長職務代理者

分かりました。

○ 桑原委員

実数ではなくパーセンテージでもよいのではないですか。

○ 杉本教育総務課長

施策評価として数値を挙げていく上では、事務事業とするとこの判定数値を共通して使っていけないとなると集約できませんので、途中では変えられません。

今お手元に配布しておりませんが、個々の事務事業評価表にはそれぞれの数値が記載されております。本来であれば、そこまでご覧いただければ事務事業の構成の中身が詳しく分かるようになっております。

○ 大山教育長

悪い結果が出たら、指標の設定がおかしいというのはおかしな話で、登録児童数が減ったということの評価の基準にしているわけですが、減った理由が、教室の内容が悪くて減ったのか、もともとこどもの数が少なくなってきて減ったのか、その辺の設定をするときに、どういうつもりであったのか。増えたらよいのか、減ったらよいのか、そういうところの考えが無くて数字を置いてしまうと、正しい評価に結び付かないのではないかとこの心配があります。

減ったという理由が何で減ったのだろうということを突き詰めていったときに、平成29年度以降の事業を展開できるような設定の仕方を常にしていかないと、数字は上げたけれど評価が次に結び付かないことになると思います。その辺も、十分に今後気を付けてお願いしたいと思います。

○ 関川教育長職務代理者

事業を評価するときに、何によって評価をするかということによって、全然出てくる姿が違うわけですね。教育長がご指摘のとおり、この指標で評価した方がより現実に即しているのではないかとこのものはないのか、評価の時期になったらあたふたするのではなく、私たちが学校に求めているものと同じように、事業がスター

トするときに、評価というものがどうあればよいのかということ点を点検して、そこで修正するならばして評価時期に向かうという方が、より現実的な事務事業評価につながるのではないかとこのような気がします。

毎年しているとは思いますが、事務局内で議論を一度していただくとよいのかなと改めて申し上げておきたいと思えます。

○ 外山委員

私も昨年同様な質問をしたが、目標を高くすればゼロに近くなるし、低くすれば達成できるというお答えがあつて、目標値によって大分違うという説明であつた。ならば、この評価はそれほどこだわって、落ちたから重症ということではないのかなとその時は解釈しました。

児童センターのことを質問したいのですが、利用者数の評価がゼロになったということはどういうことなのかと思えました。利用者そのものが激減したのか、どういふことで評価がゼロになったのかお聞きしたい。

○ 本間青少年健全育成センター所長

利用者の中には、隣にあります「こどもの館」の利用者も入っておりまして、「こどもの館」にはご存じのとおりこうぬま児童クラブが入っております。こうぬま児童クラブを昨年分割して、子どもたちがぐっと減り、その数もカウントされていたこともありまして、大幅な人数の減少になったというような形です。そもそもカウントの人数そのものがそういうものであつたことですから、結果としてこうなつてしまいました。合わせて見ると、若干減少気味なのですが、大幅には減つてはいないです。

○ 関川教育長職務代理者

行政評価報告書の7ページの、基本目標に位置付く施策の達成度の「4 芸術・文化」については、達成度は57.14パーセントとあり、事務事業数は7つで、事務事業事後評価結果の35ページを見ると確かに7つ並んでいます。しかしですね、1、0、0という数値が平成27年度判定の欄に見えますが、こういうものを見ると新発田市がいかにか芸術・文化というものに対して取組が弱いかということが如実に出てきているような数値であります。このことについては、芸術・文化団体から不満の声が上がっているのではないかと。市民の声の中には、いろいろと辛らつなものも含めて私の耳に届いていたりして、ちょっと気にしているのですね、教育委員として。簡単に言えば、ちょっと飛躍しますが、市の美術館がない、絵を飾ったり鑑賞するための専門の場所がないということで、芸術・文化団体は非常に不満をお持ちです。地域交流館ですとかいろいろな所で部分的に小規模に鑑賞するチャンスはありますが、なかなか芸術・文化に対する理解が新発田市は進んでいないのではないかと評価をされてしまう。そういうものに携わる人がたくさんいる都市であるにもかかわらず、そういうことが言われているということは、教育委員としては非常に慙愧に堪えない。この辺のことについて担当の課長からコメントを聞きたいです。

○ 平山文化行政課長

体系上の位置付けで、芸術・文化の施策主管課は文化行政課となっておりますが、事務事業は「美術品展示事業」を除きまして全て中央公民館となります。

「美術品展示事業」、「市民茶会・あやめ茶会開催事業」、「公民館文化祭開催事業」、「全国花嫁人形合唱コンクール運営事業」は高い評価を受けておりますが、一方、「市展運営事業」、「手工芸・水墨画展開催事業」、「趣味の展示会運営事業」は低い結果となったため数値が下がっております。数値が低くなった理由につきましては、事務事業の担当課である中央公民館からお願いします。

○ 伊藤中央公民館長

展示会関係が0点になっているということですが、目標値を設定したときの現状値が高過ぎたということで、それと比較することによってゼロになってしまうと理解していただきたいと思います。全体的には、出展者数が減ってきており、また鑑賞に来られる方も減ってきております。高齢化が進んできており、新たに美術団体に入ってくる人も減っています。その辺につきましては、公民館でも教養講座のような形でテコ入れをするような教室を開くなどの取組をしております。

○ 外山委員

関川委員がおっしゃったのは、0点ということは問題ですが、0点そのものを責めているのではなく、単なる一過性の展示会とかではなく、芸術・文化に対する理解や積極的にそれに向かうことをもう少し考えた方がよいという、根本的なことをおっしゃっていると思います。

1日だけの行事、今日は書道の展示ですとか、今日は絵の展示ですとか、というものであればそれはできると思いますが、そういうことではなく、芸術・文化に対する根本的な施策、こういう風にしていきたいというものを何年か前から言われています。私も直接、文化団体連合会の臼井会長からかなり厳しいことを言われています。芸術・文化に対する根本的な姿勢が新発田は少し弱い。それをもう少し理解あるものに変えてほしい。

かつて発掘調査のところ田中さんがいた時は、激しく発掘関係のものが脚光を浴びて、活動も激しいものを打ち出しておりましたが、それに比べると、芸術・文化、いわゆる美術に対する理解が新発田市はほとんどないということ、臼井会長から厳しく言われています。そこで、こういうものが他市には負けないんだというものを少しでもよいから打ち出してほしいです。単に書道の開催だとか、絵の開催だとか、そういう現実的なものを言っているのではないと、私は関川委員がおっしゃっていると理解しました。臼井会長の怒りというものは、本当に厳しいものでした。

ただ、私見ですが、市展では3回入賞すると無審査になります。いつも同じような人が出しているので、上の方が無審査になり、次に出した人が入賞と毎年入賞者が必ずあるわけです。ずっと見て回ると、無審査がものすごく多いです。長老のような無審査の方たちばかりで、若い人が入りにくい雰囲気みたいなものがある。無審査がどんどん増えていって、出展者のほとんどが無審査になるような美術展では、出す側も無審査だからということで、無審査の方がかえって技術が下手な人もいます。ちょちょらに出しても無審査では困るのではないかと臼井会長に厳しく申し上げました。

活性化するためには、切磋琢磨といいますか、そういったものもほしいし、若者たちが進んで出せるような雰囲気や文化団体連合会へもしてほしいとお願いしました。（行政も団体も）両方で努力しなければ美術に関するものは駄目だと思っています。ぜひともその辺も考えてほしい。

○ 大山教育長

私も何度か文化団体連合会の皆さんと話し合いをする機会がありました。文化行政課そのものもあの方たちの積年の希望で、生涯学習ではなくて文化行政として独立させてほしいというご要望をいただいたりして、その中で事業の取組をいろいろとお話させていただきました。

どうもあの方々は、全部、文化行政課に集約してほしいところもあるようですが、ただ、社会教育といったところでは公民館の事業ですとか図書館の事業ですとか、様々に行政の方は分かれていますので、そういう取組をしているというご理解ですとか、それから美術展にしても市が所蔵しているものの展覧会を一緒に開催しませんかとお話しかけをしても、あの方々たちの団体には団体の考え方がありますので、それがすり合うことができなかつたりということはありません。最近では、スムーズにこうやっていきましょうという話し合いが整ってきました。また、美術展も、市が所蔵するものと文化団体連合会と一緒に企画をもって新たに取り組む形で、それぞれ実行委員会を作ってやりましょうといった話し合いをさせていただいており、決して悪い方向には行っているとは思いません。

ただ、この政策大綱の今後の取組方針にも市民が文化・芸術に親しむような環境を整えるとは書いてありますが、ちょっと抽象的過ぎて、これからどうやっていくのか市民の方にもう少し分かりやすく具体的に伝わるよう形で、今後の新発田の芸術・文化の振興を、教育委員会としてどう取り組んでいくのかというものを、団体とよく相談しながら作り上げていかないといけないと思います。

○ 関川教育長職務代理者

文化団体はプライドの高い方が集まっておりまして、話し合いが難しいという面があると思います。

私は、違う方向からものを考えていかないと駄目かなとちらっと思います。官民が助け合って、例えば、小さなギャラリーが新発田にはたくさんあるので、そのギャラリーの連合体で定期的に展示をすとか、そういうような感覚をもっていくとどうなるのだろう。文化連合団体の単体のそれぞれの意見を聞いて、「さあどうしましょう」と大上段に振り被ったような大議論を起こすとなかなか前には進まない。これはもう何十年も前から言われています。その壁を破るにはどうするのかという発想を持たないといけないのではないかと。去年までこうしてきたからこうだという発想では一切前に行かない。なぜ、露谷虹児記念館がちゃんとできているにもかかわらず、ほかはできないのだろうという素朴な疑問がある。何か違う観点、発想というところで若い人を交えて検討委員会みたいなものを立ち上げて、これから10年くらいかけてよい方法を出していきませんかみたいな発想がないと、今までこうだったからだとか、あの人たちはこう言っているとかのレベルの話では前に進まないのではと思います。

新発田という都市は、文化・芸術に対して非常に理解のある、素地がある都市だ

と思います。しかしながら、その人たちがぶつくさ言っている状況では、どうも教育委員としては居心地が悪い。発想を変えてアプローチしていけないか。例えば、市民ギャラリーの建物はものすごく古く、私がこどもの頃は国立病院といった建物だったと思います。それが医師会館に変わっていくのだけれども、ものすごく歴史がある。残念ながら駐車場が狭いですけどね。

○ 外山委員

芸術・文化の中で思うのは、写真だけは結構活躍しています。写真だけは結構広く、本当に子どもや若い人からずっと大勢の人がいます。吉原さんの努力もありますが、新潟市あたりまで、新発田のまちは写真でまち起こしみたいに知られている。ほかの分野は沈んでいて、さっきおっしゃったように高齢化が進んでいる。では、若者に参加してもらうにはどうしたらよいかというような工夫が必要だと思います。ベテランの方はもちろん、本当に有名な方がたくさんいるので、そういう人たちの意見も大切なのですけれども、若者を巻き込んでいくにはどうしたらよいかという策が必要だと思います。

文芸しばたを読んだとき気持ちが暗くなったという話をしたら、その時の館長に驚かれました。年齢が高くなるから、「死を見つめる」とか「人生の最後には」というものばかりが、詩から句から小説から、内容がそういうものだけでは、よい文章なのだけれども、読み終わったときに本当に重い気持ちになります。一人でも二人でも各小学校に声をかけて、ぜひとも若い人たちを載せてもらってくださいと言ったら、その後すぐに小学生の俳句や誌や小説が載るようになり、読み終わるときに、非常に子どもたちに期待できるという希望を感じるような文芸しばたに変わったので、大変うれしく思いました。

それと同じように、美術も大ベテランの素晴らしい人がたくさんいるのですが、その人たちの考えだけではなく、若者たちを巻き込むような何かをもっていけないとジリ貧になっていくということは目に見えているのではないかと思います。とても有名な絵の方もたくさんいるので、そういう人たちは大切なのですけれども、その人たちを活かすためにもパワーで何とかしていくという力が必要になります。

○ 大山教育長

実際のところは、一般事務職員ではなく学芸員ですとか知識がないと対抗できない。

○ 外山委員

若者たちのものを、ジュニア展とか市展ですておられますけれども、正直に言って市展の時に、積極的にやっている学校と、まず学校で言われたからしょうがなく代表を出したみたいなのは、ちょっと分かりますよね。ああいう分野をもう少しテコ入れしていくとか、高校でもそうですが、美術、書道、音楽の決まった先生がいけないということはすごく弱いと思いますが、せっかくのものを倉庫に入れておくだけで引き出す力がないというのは、それでは宝の持ち腐れになると思います。若者も何らかの形で力を入れていくという方法がないと駄目だと思います。

○ 笠原委員

先ほど、関川委員が官民という形でおっしゃっておられましたが、この10月にアールブルット展という障がいのある子たちの作品を飾る会が長徳寺であり、毎年開催させてもらっています。名誉ある方の絵とはまた違うのですけれども、長徳寺も毎回満員というかすごく大盛況です。

いつも展覧会という、どこどこで、という風に場所が決まっています。駐車場とかの問題もあるのかもしれませんが、行きたいと思えば駐車場がなくても多分行くと思います。展覧会といういつもの場所ではないところではなくて、「えっ、ここで」というような、ちょっと防犯とかいろいろな問題もあるのかもしれませんが、意外性のあるところに作品が飾られていたりすると、ちょっとドキッとする部分もありますし、割と若い人は、古いものに対して憧れであったりカッコいいと思う人も多いと思います。なので、あえて古民家のような所で作品展をしてみるとか、だだっ広いところでただ作品を鑑賞するだけではなく、雰囲気も交えたというようなものなども面白いのかなと思います。アールブルット展は、お寺とミスマッチな部分もあるのだけれども、合っている部分もあるみたいな、すごく穏やかな気持ちになるというか、作品も感動しますし、飾ってある雰囲気にも感動を受けた気持ちになります。

昨年、寺まつりでしたか、寺町の所で自分の作品を販売や発表しておりましたが、新発田はお寺が多いので、そういうところで開催するというのも意外性がある面白いかと思います。寺まつりも全然駐車場はなかったのですが、ものすごく盛況で、市外から来られたという話も聞いておりますが、やはり官民で何か作品展をするにしても四角い箱の中で作品を飾るだけではなく、もう少し違う場所で事業をしてみてもどうでしょうか。例えば米倉の古民家で飾ってみるとか、そういったものも面白いかとちょっと思います。減少、減少と言われている中で、どうしたらよいか、官民で考えていくことが大事なのかなと話を聞きながら思いました。

○ 外山委員

あそこに行けば美術が見られるというような古民家を市で借り上げて、常時そこには何らかの展示があるとか、そういう方法を美術協会とかで提案したりして、一挙に美術館はできないですけれども、そういうのを積み重ねていけば何とか少しは展示を常時できるようになればよいのではないのでしょうか。

○ 大山教育長

今のところ美術館は市長も造りたいけれど造れない。イニシャルもランニングも経費が相当かかるということがあって少し無理だろうということで、今のところの考え方としては、お城のところに複合型の生涯学習施設を造るという計画がありますから、その一部にギャラリーというか多目的に使うような形で展示してはという方向で庁内の検討委員会で検討を進めています。団体の方も思い描いている夢は違うと思いますが、そこに大分期待をしているところもあるものですから、そういった中で少し話ができるのではないかと思います。

もう一つ、今話が出ました、写真のまちしばたや各ギャラリーを民間の方々が一生涯懸命されておりますが、ここに書いてあるものは行政がやっているわずかな分だけですので、これだけで新発田の文化度が測れるものでは到底ないわけですけれど

も、全く行政が絡んでいないわけではなくて、支援したりしてそこまでなったわけでありますから、工夫の仕方によっては写真以外のほかの分野でも民間の力をうまく引き出していくことによってさらに活動が活発になると思います。何も全員が中央公民館に来てくださいますとか、どこそこに来てくださいますというだけの活動ではなく、新発田市全体の文化度を測るといったところもこれからは検討していかなければなりません。

○ 関川教育長職務代理者

今後やっていくことは、やはり活性化ですね。どう測るのかといった議論をどこでやっていくのか。そのあたりが見えてくると、若い人たちも「よし」ということで腰を上げていくのではないかという気がします。

○ 桑原委員

評価結果をどのように捉えていくのかといった側面の感想を申し上げます。

大変たくさんの数値をまとめて集計をとるわけですが、そうしますと、よく起こりがちなのは、結果を出したところで完結してしまうことです。評価指標は数値で行うわけですが、昨年度と比べて上がったか下がったかということについては教育長が最初におっしゃったように、なぜ異動があったのか分析を必ずしていかなければなりません。「下がりました。最初に設定した数値が高かったから」というのは、理由になりません。昨年よりも落ちているわけですから、それをきちんと分析しなければならぬ。

数値を見ると、全体としては教育・生涯学習は77.26パーセントとなっており、全体の平均の72パーセントを上回っています。しかし、教育・生涯学習の中の6施策トータルで77.26パーセントとして見るのではなく、それぞれの施策で何パーセントを達成したのかを見なければ意味がありません。全体の平均を割っている施策は、「生涯学習」、「青少年育成」、「芸術・文化」、「スポーツ・レクリエーション」です。つまり、数値で判断するというこの評価体系をとるからには数値が悪いところは努力をしなければならないということです。来年度、この全体の平均を割った施策については、現在の事業は変えられないと思いますので、その事業の中でなぜ数値が悪化したのか分析をきちんとし、改善策を一生懸命考えていただかなければなりません。そうしないと数値化した評価結果を出す意味が全くなくなってしまいます。

それから、全体の計画の見直しは5年くらいでしょうか。何度か言及されている目標値をどうするのか、あるいは事業の内容を変えるのか、大がかりにプランを立て直す時期がくるわけです。そうしたら、もしマンネリ化した事業があるとしたら、それは変えなければならない。毎年毎年、決まった事業について努力をして出て来てくれる人を増やすとか、出品数を増やすとか、そういう努力は年度ごとにしなければいけません、5年なら5年の大幅な見直しを過去5年の結果を分析して進めていかなければなりません。どの事業は残してどの事業はやめるのか、或いはどんな風に変えるのか。美術に関してはいろいろな提案がありましたが、事業を変えるときに必要になるご意見だと思います。二段階で考えるということが求められます。

データの提出と評価をまとめることが最終目的ではないということ、また達成度が低かったところは、改善しなければならないのだという意識を持たなければなら

ないと思います。

○ 大山教育長

様々なご意見をいただきまして、事務局も十分肝に銘じたと思います。
そのほかにご意見、ご質問はございますか。

○ 大山教育長

ほかにご意見、ご質問がないようですので、議第1号 平成27年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検、評価等に関する議会への報告については、原案のとおり可決することとしてよろしいでしょうか。

○ 大山教育長

異議なしと認め、議第1号について、可決することに決しました。

○ 大山教育長

次に、議第2号 平成27年度一般会計決算について、を審議します。
杉本教育総務課長から説明をお願いします。

【杉本教育総務課長 説明】

○ 大山教育長

何かご質問等はございますか。

○ 外山委員

あかたにの家を利用させていただきましたが、宿泊施設は快適でとてもよかったですし、係の方にも大変気を使っていただき、暑い体育館に扇風機を設置していただいたりして親切にいただきました。しかし、希望なのですが、今後も防災の教育の拠点とするためには、こどもたちは基本的には体育館に段ボールで自分たちの寝る範囲を作り寝ているわけなので、体育館をもう少し充実させていただきたい。あそこの施設で一番弱いところが体育館だと思います。虫が入らないように隅にガムテープを張ってもらったりもしたのですが、もう少し夏場だったら扇風機の台数を増やすとか、ゆくゆくはクーラーを付けていただくとかしないと一番暑くて苦しい体育館にこどもたちが段ボールの中で寝るわけなので、今後は体育館の充実をもしできるのであればお願いしたい。

○ 伊藤中央公民館長

今回の整備については、体育館は整備の対象に入っていないです。防災キャンプをするときは、夏休みではなくて7月、9月、10月あたりにばらして時期を見ながら行いたいと考えております。扇風機くらいであれば何とか台数を増やすことは可能かと思いますが、エアコンとなるとちょっと無理な話かと思えます。

網戸は、今は直っているのではないかと思います。

○ 関川教育長職務代理者

災害体験だと、至れり尽くせりの施設でやるのは考えが違うのではないでしょう

か。傍にベッドもあるのにわざわざ体育館に行って段ボールで寝ることは、まさに災害の体験そのものです。災害の場合には虫も入ってくるだろうし、何が起きるかも分からない状態の中で体験をさせなければならないとなると、痛し痒しですね。最低限の整備をしてあげればよいのではないかと思います。

○ 大山教育長

ほかにご意見等はありませんか。

○ 大山教育長

ほかにご意見、ご質問がないようですので、議第2号 平成27年度一般会計決算については、原案のとおり可決することとしてよろしいでしょうか。

○ 大山教育長

異議なしと認め、議第2号について、可決することに決しました。

日程第5 その他

○ 大山教育長

続きまして、日程第5 その他に入ります。
事務局から何かありますか。

○ 本間青少年健全育成センター所長

「わたしの主張 三市北蒲原地区大会」の結果について、ご報告させていただきます。

【本間青少年健全育成センター所長 説明】

○ 大山教育長

そのほかに何か報告等ございますか。

○ 澁谷学校教育課長

新発田市小学校音楽交歓会実施計画の概要についてご説明いたします。

【澁谷学校教育課長 説明】

○ 大山教育長

ほかにもその他について、何かございますか。

○ 大山教育長

ないようですので、教育委員会の今後の日程（予定）について、杉本教育総務課長から説明をお願いします。

【杉本教育総務課長 説明】

○ 大山教育長

そのほかに、何かございますか。

○ 伊藤中央公民館長

10月14日に予定しております市展の開場式についてお知らせいたします。

【伊藤中央公民館長 説明】

○ 大山教育長

そのほか、何かございますか。

○ 大山教育長

ないようですので、以上で、教育委員会平成28年9月定例会を閉会いたします。

午前11時 閉会

平成 年 月 日

新発田市教育委員会教育長

委員